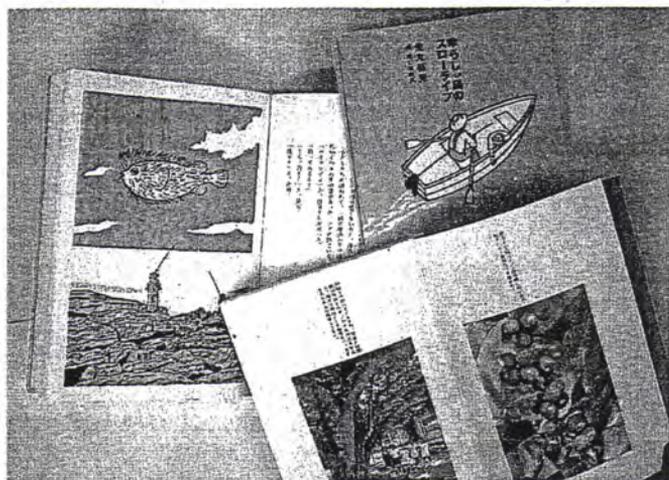


▼スローライフ▼

ゆらしい生活 一冊の随筆に



唐津市出身 徳之島に東京から移住の金丸さん

唐津市出身で全国各地の農村を取材して食の問題に取り組み食環境ジャーナリスト金丸弘美さん(51)が、一家で移り住んだ鹿児島県・徳之島の生活をつづった「ゆらしい島のスローライフ」を出版した。自身初の随筆集。イラストは同県出身で、高倉健著「南極のペンギン」のさし絵で知られる唐仁原教久さん(53)が担当した。

金丸さんは3年前、家族の健康や長男のいじめ問題などをきっかけに、妻の両親の出身地である徳之島・伊仙町に、東京から家族で移住した。自身48歳、妻44歳、長男中学1年生、次男小学5年生の時だった。

本のタイトルの「ゆらしい」は島の言葉で、「ゆつくり」という意味がある。題材は、島の暮らしで出会った自然の美
金丸弘美さんの初めての随筆集「ゆらしい島のスローライフ」

自然や食事・人の交流など

しや人々との交流、理にかなった食物など。スローフードやスローライフの提案者であり取材者でもある金丸さんの視点で、犬のように牛を散歩させる島の人たちや海水から塩を作る話など25の逸話をつづっている。

雑誌「ソトコト」の写真家でもある阿部雄介さん(34)が撮影した島の風景や食物などの写真も本に彩りを添える。島独特の料理の作り方の紹介など、家族が日頃味わっている食べ物を再現できるような工夫も。

「ゆらしい島のスローライフ」(学研)は1300円(税別)。

金丸さんを知るニッポン東京スローフード協会長の小泉武夫・東京農大教授は「本当のゆつたりとした暮らしとは何かを教えてください」と紹介している。